

ホンシメジの菌床野外栽培法

福島県林業研究センター 林産資源部

部門名 林業 - 食用きのこ - 栽培方法
担当者 長谷川 孝則・古川 成治

新技術の解説

1 要旨

ホンシメジは人工栽培が困難とされてきたが、滋賀県森林センターで開発された培地等の利用により菌床栽培が可能となった。本試験においては、当センター選抜菌株と日向土を使用した菌床による野外覆土栽培により、良好な子実体の発生が可能であることを確認した。

- (1) 菌株は当センターで選抜したもの、培地は日向土を主体とし(表1)、添加液(表2)を加えたものを使用した。試験は野外伏せ込みにより実施した。伏せ込み時期は9月中旬(9/12)で、収穫は10/27～11/19であった。
- (2) 覆土には鹿沼土(中粒)を使用し、覆土厚は2cm程度とした。発芽まで、灌水チューブでpF値が適正(1.7～2.3)な範囲となるよう散水管理を行い、寒冷紗による被覆を実施した。栽培袋は除いていない。
- (3) 発芽後の積算温度は120 程度であった。(もしくは発芽後10日程度にわたり期間内平均気温10～13 程度で推移)
- (4) 子実体は単生もしくは束生で、形質は良好であった。

2 期待される効果

- (1) 被覆資材等簡易な資材のみでの野外自然栽培の可能性が確認され、ホンシメジ栽培技術の向上に大きく寄与するものと考えられる。

3 適用範囲

きのこ関係研究者・きのこ栽培者

4 普及上の留意点

- (1) 収量の向上と菌床製造にかかる経費の低減が必要である。
- (2) 菌床製造に使用する添加液の取り扱いが、一般栽培者にはやや困難である。
- (3) 天然から分離される全ての菌株に適用できるわけではない。

具体的データ等

表-1 培地配合比

培地組成	数量	単位
日向土	1,000	g
バ-ミキュライト	100	g
押麦	600	g

表-2 添加液の組成(押麦1kg当たり) 滋賀県森林センター

添加液組成	数量	単位
クエン酸	0.5	g
リン酸2-水素ナトリウム	0.1	g
硫酸マグネシウム	0.2	g
アセチルアセトン	5	μl
塩化第2鉄	50	mg

表-3 試験区設定状況

区分	被覆の有無	覆土		個数
		落葉	×	
1 袋あり区	×			10
				10
2 袋なし区	×		×	10
				10
3 袋あり区	×	×		10
				10
計				60

表-4 子実体発生状況

区分		確認月日													合計	平均個重	発生量		
		10/20	10/21	10/23	10/24	10/27	10/28	10/31	11/4	11/7	11/11	11/12	11/14	11/17				11/19	
1 袋あり区	株数																		
	個数																		
	収量																		
1 袋なし区	株数																		
	個数																		
	収量																		
2 袋あり区	株数																		
	個数								3	8	7		2			1	21		
	収量								6	20	10		5			1	42		
2 袋なし区	株数								115	370	145		50			10	690	16.4	69.0
	個数					1			2	2	1						6		
	収量					140			95	25	55						315	17.5	31.5
3 袋あり区	株数								3	3	4				3	1	14		
	個数								6	5	5				7	4	27		
	収量								135	100	45				75	15	370	13.7	37.0
3 袋なし区	株数								1	2							3		
	個数								3	7							10		
	収量								15	60							75	7.5	7.5
合計	株数					1	1	10	13	12		2		3	2	44			
	個数					1	3	28	28	20		5		7	5	97			
	収量					140	15	405	495	245		50		75	25	1,450	14.9		

収量の単位はg

発生を確認した箇所 適期前のため採取は行っていない



写真-1 培養済み菌床



写真-2 伏せ込み状況



写真-3 収穫した子実体

その他

1 執筆者

長谷川 孝則

2 主な参考文献・資料

(1) 太田明(滋賀県森林センター 1998) ホンシメジの実用栽培のための栽培条件 日本菌学会会報39:13-20